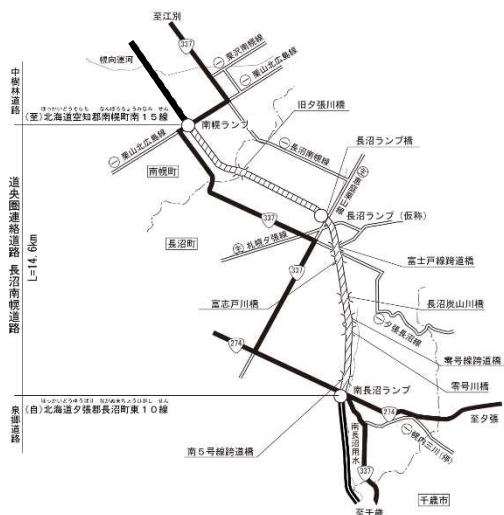


担当課長名： 西川 昌宏

- ① 物流拠点の利便性向上
 - ・新千歳空港、石狩湾新港及び苫小牧港への所要時間が短縮され、物流輸送の効率化が期待される。
- ② 農産品の流通利便性向上
 - ・農産品の道外出荷を担う新千歳空港や苫小牧港等の物流拠点への定時性が確保され、農産品の流通利便性向上が期待される。
- ③ 拠点空港新千歳空港への利便性向上
 - ・定時性・速達性が改善されることにより、都市間バスの運行ルートの転換が生じ、新千歳空港との連絡強化による利便性の向上が期待される。
- ④ 道路交通の安全性向上
 - ・大型車を含む並行路線を通過する交通の転換が見込まれ、周辺住民の道路交通の安全性向上が期待される。
- ⑤ 異常気象時や冬期間の安全性向上
 - ・冬期視程障害の緩和や浸水エリアを回避したルートとなり、安全性向上が期待される。
- ⑥ 企業立地の促進
 - ・空港や港湾など主要拠点間への速達性が向上し、周辺の工業団地等での企業立地が期待される。

関係する地方公共団体等の意見	
地域から頂いた主な意見等：	
江別市など5市3町の首長等で構成される「道央圏連絡道路整備促進期成会」等から整備促進の要望を受けている。	
知事の意見：	
「道央圏連絡道路（一般国道337号） 長沼南幌道路」事業を「継続」とした「対応方針（原案）」案について、異議はありません。	
当該事業は、中樹林道路、泉郷道路と接続し、高速ネットワークの拡充による札幌圏の連絡機能の強化を図り、地域間交流の活性化及び拠点空港新千歳空港、国際拠点港湾苫小牧港等への物流効率化等を支援するとともに、道路交通の安全性向上や企業立地の促進が期待されるなど、経済・社会活動の活性化や道民の安全・安心なくらしの確保に寄与することから、早期供用をお願いいたします。	
なお、事業の実施に当たっては、平成21年1月地域高規格道路道央圏連絡道路（長沼町～江別市間）に係る環境影響評価書に記載の「準備書についての知事意見及びそれに対する事業者の見解」を遵守するとともに、より一層の徹底したコスト縮減を図り、これまで以上に効率的・効果的な執行に努めるようお願いいたします。	
事業評価監視委員会の意見	
当委員会に提出された再評価原案準備書の対応方針については、北海道開発局案を妥当と判断する。	
事業採択時より再評価実施時までの周辺環境変化等	
<ul style="list-style-type: none"> ・平成23年10月 北海道横断自動車道 夕張IC～占冠IC開通 ・平成24年12月 石狩湾新港石狩LNG基地稼働 ・平成25年 8月 北海道縦貫自動車道 新千歳空港IC開通 ・平成28年 1月 道央圏連絡道路 当別バイパス 全線開通 ・平成29年 9月 北欧の風道の駅とうべつオープン ・平成30年12月 新千歳空港国際線ターミナル前エプロン拡張部暫定供用 ・平成31年 2月 石狩湾新港発電所 営業開始 ・令和 2年 3月 道央圏連絡道路 泉郷道路 全線開通 ・令和 2年12月 北海道縦貫自動車道 苫小牧中央IC開通 ・令和 3年 7月 「北海道・北東北の縄文遺跡群」世界遺産に登録 ・令和 5年 3月 北海道ボールパークFビレッジ開業 ・令和 6年 3月 北海道横断自動車道追分IC～夕張IC間暫定2車線区間における4車線化事業化 ・令和 6年 4月 札幌北広島環状線 角山工区新規事業化 ・令和 7年 3月 道央圏連絡道路 中樹林道路 全線開通 	
事業の進捗状況、残事業の内容等	
平成29年度に工事着手して、用地進捗率約93%、事業進捗率約73%となっている。 (令和7年3月末時点)	
事業の進捗が順調でない理由、今後の事業の見通し等	
引き続き、早期開通に向けて事業を進める。	
施設の構造や工法の変更等	
軟弱地盤対策の進捗を図り、引き続き、コスト縮減に取り組んでいく。	
対応方針	事業継続
対応方針決定の理由	
以上の状況を勘案すれば、当初からの事業の必要性、重要性は変わらないものと考えられる。	

事業概要図



凡 例	
	供 用 中
	事 業 中
	再 評 価 区 間

※総費用、総便益とその内訳は、各年次の価格に社会的割引率(4%)を用いて基準年の価値に換算し集計したもの。

※B/Cの値は、社会的割引率4%を用いて計算した場合の費用便益分析結果。また、比較のために参考とすべき値として1%及び2%を設定し、それに対応する費用便益分析結果を参考として併記している。([]内は社会的割引率の値)